



五島・玉之浦町の漁師、1973年。撮影：河野裕昭

京都

ひと・まち交流館

1F 作品展示スペース
(河原町五条下る東側)

入場無料

[平日] 10:00 - 20:00

[日] 10:00 - 17:00

2019年

8月18日(日) > 8月31日(土)

※8月20日(火)は休館日

京都写真展 油症事件とPCB/ ダイオキシン 汚染を考える

日本最大の食中毒事件発覚から51年、
そして2019年、第39回ダイオキシン国際会議が京都で開催——

1968年、西日本一帯に販売されていた米ぬか油にPCB・ダイオキシン類が混入していたことが原因で、1万人以上の人々が健康を害した「カネミ油症事件」。類似の事件は、1979年に台湾でも起きました。体内に入った毒物の影響で、いまなお多くの人々が苦しんでいます。

日本では2012年、ようやく被害者救済のための法律が制定されましたが、この事件が社会に投げかけた課題がなんであったのか、考える機会は少なくなっています。本展は、カネミ油症事件に関する唯一の写真集の著者である河野裕昭氏(1950-)による作品約50点(未公開作品含む)を中心に、油症事件とPCB汚染の過去から現在までをたどり、化学物質による負の影響に、わたしたちはどう向き合えばいいのかを考える場とします。

[展示内容]

I. カネミ油症事件 II. 台湾油症事件 III. 台南安順工場ダイオキシン汚染事件 IV. PCB・ダイオキシンとわたしたちの暮らし

[主催]

市民環境研究所

日台油症情報センター

[協力]

「油症事件とPCB汚染を考える
2018」長崎展実行委員会
使い捨て時代を考える会

[お問い合わせ]

Tel & Fax 075-711-4832

E-mail pie@zpost.plala.or.jp

市民環境研究所